

中鎖脂肪酸(MCT)の特長と中鎖脂肪酸乳化液「エデスター カプリ」の使用例

《中鎖脂肪酸とは》

【由来】植物原料に由来し ヤシ油などに5～10%含まれています。
 ～ 母乳・牛乳の脂肪にも含まれ安全性が高い

【脂肪酸とは】

脂質の主要構成原料で一般的な植物油や動物油では、重量で約95%を占める主要成分です。脂肪酸は含まれる炭素(C)の数により、(C4～C6)短鎖脂肪酸・(C14～C20)長鎖脂肪酸などと呼ばれますが、中間的な炭素数であるC8～C12の部分が中鎖脂肪酸となります。ちなみに C₈～カプリル酸と呼ばれ、C₁₀～カプリン酸と呼ばれています。炭素数により同じ脂肪酸でありながらそれぞれ吸収・代謝に特徴があり生理機能も違います。特に中鎖脂肪酸のそれらが注目されています。

【高いエネルギー効率】1gで約9kcal(キロカロリー)と
 VS. タンパク質・炭水化物は1g実質1～2kcal

【長鎖脂肪酸(一般的食用油)との比較】

	中鎖脂肪酸 MCT	長鎖脂肪酸 LCT
吸 収	吸収は4倍も早い。 肝臓ですぐに分解され利用効率が高い。	吸収は遅い。 吸収後必要に応じて分解される。
吸 収 経 路	門脈から肝臓へ直行	リンパ管を經由 静脈 脂肪組織・ 筋肉・肝臓へ
体 内 蓄 積	体内に蓄積しない。	体内に蓄積し易い

MCTをラットの小腸に直接注入した場合、10分間で約58%が小腸に吸収される。

MCTは 消化吸収に優れた高カロリーのエネルギー源 として医療の現場で利用。
 畜産界では 新生豚への給与で虚弱豚の健全育成と抗病力アップに応用。
子牛への給与で増体・体高の伸長で飼料代の節約。早産子牛や下痢治療後の栄養補給。
 しかし、近年 中鎖脂肪酸はエネルギー源だけでなくその生理機能にも着目される。
 @食品の静菌剤としての応用から始まり@抗菌作用@駆虫作用を利用して、
 濃厚飼料の昆虫発生や劣化防止・コクシジウムの排除なども期待されています。

《中鎖脂肪酸 含有乳化液「エデスター カプリ」の給与例》

子牛の場合：導入から日量50ml(朝・晩)25mlずつ 20日間 ミルクに混ぜ給与する。
 増体と体力増強で強い牛に。出荷日の短縮で飼料代の節約を。病後の栄養補給。

子豚の場合：仔豚 特に虚弱豚に対し生後12時間以内に 2～3ml/頭を経口投与。
 ビタミンADE液(吸収しやすい粒子の細かいエデスター1号1ml)との併用をお勧めです。
 エネルギー補給で未熟豚の延命率向上。 産子豚の体型がそろいます。